

D

VOL. 26

wing

ディー・ウィング

この人に聞く！
第8回 お仕事の**ヒント**

リーダー職の
育成・支援のために
システムを構築

第24回 *Care Point*

車いすの**座位姿勢**



リーダー職の育成・支援のためにシステムを構築

採用した介護職員がリーダーになる手前で離職してしまう、この悩みを多くの施設が抱えています。そこで積極的に取り組みを始めたのが、介護老人保健施設ハートランド・ぐらんぱぐらんまの副施設長・事務長の根本伊左夫氏です。リーダー職を目指して、職員自身が自分の働き方と将来像を選べるキャリアアップシステム、「未来プラン」ができるまでの歩みについてお話ししていただきました。



医療法人社団光生会
介護老人保健施設
ハートランド・ぐらんぱぐらんま
(東京都八王子市)
副施設長・事務長 根本 伊左夫

職員が定着する施設の共通点とは

ハートランド・ぐらんぱぐらんまは、東京都八王子市にある介護老人保健施設です。母体は精神科病院を運営する医療法人で、開設は1995年、介護保険制度の施行直前でした。医療と福祉が連携した新しい高齢者介護の実現という理念を掲げ、最初に集まった職員の士気はきわめて高く、職員同士の一体感が生まれました。しかし、一気呵成の勢いで施設作りに邁進した草創期が過ぎると、3年目、そして6年目と3年周期で職員の大規模な入れ替えが起きました。退職の理由はそれぞれでしたが、欠員の補充に追われたことから、職員が働き続ける施設にしようと運営を見直しました。まず参考にしたのは、職員が定着している他施設(特養や病院)の取り組みです。そういった施設には、いくつかの共通点があります。①職員の行動規定に至るまで、施設の方針を明確に表し

ている、②指示命令、連絡報告、相談といったコミュニケーションを保つように、縦と横の組織が整備されている、③施設の目標に沿った研修を実施し、職員のモチベーションを高める、の3点です。これらを踏まえて、思い切った組織改革を行うことにしました。

施設運営を見直し 離職者が減少

開設から7年経った2002年、課長・主任制を導入。職責を明確にするとともに、各セクションの自立性を大切に、セクションで年度計画の立案も行うようにしました。また、施設の基本方針や施設サービスの目標を明文化し、就業規則や倫理規定を網羅した「職員ハンドブック」を作成。さらに、職員の意見や要望が管理者にスピーディに上がるように、「報告書」による具申とそれに対する返答システムを整備しました。研修については、老健の重要な役目であるリハビリテーションに全職種で取り組むことにし、外部から講師を招いて2年にわたって研修を毎月実施しました。これらの取り組みを老健の全国大会などで発表することにも挑戦し、すでに10報を超えています。また、専門委員会活動など就業時間外に行う自発的な活動にも、手当を支給してバックアップしました。こうして職員の定着化が進み、3年以内に離職する職員はきわめて少数となりました。

職員がより輝くためのシステムを

開設から10年目の2005年、母体の法人はデイサービスや在宅介護支援センターを相次いで立ち上げました。折から介護の人材不足が社会問題としてクローズアップされ、介護職は3Kで給料が安いと敬遠されがちでした。当施設でも規定の人員を安定的に確保することが課題になっていました。さらに新しい介護ニーズに対応して在宅復帰強化型老健を目指すため、サービス提供体制の整備やサービスの質の改善も必要となりました。介護職員の定着と同時に、将来にわたる安定確保のためには何が必要だろうか。このときに着目したのが、チームを牽引するリーダー職を重視したキャリアアップシステムです。個人の意欲だけに頼るのではなく、組織としてリーダーを育て、リーダーの意識とスキルを高めることが目的です。

背景には理事長の「最も大切なのは人である。資質のある人がより輝く人になるようなシステムを作らなくてはならない」というポリシーがありました。当施設が介護職員にとって魅力ある職場となるためには、給料や職場環境の改善を含めて将来性を感じられなくてはなりません。そのためには、「一人ひとりの頑張りに見合った評価システムと、将来的なキャリアアップを支援する仕組みが必要と考えました。

幹部職員とともにシステム作り

キャリアアップのシステム作りにあたっては、幹部職員を巻き込みました。多忙な日常業務に加えて新たな仕事を抱えることに抵抗感を示す幹部職員もいましたが、幹部職員の協力なしにはできないと彼らに訴えました。ところが会議を重ねていくと、嬉しいことに、幹部職員全員がシステムの必要性を納得するようになったのです。

表1 「未来」プランの仕組み

職掌	プラン	職務能力のポイント	経験年数	職位・等級
管理・監督職	管理者	経営計画の企画・立案・推理		7等級
	エキスパート	管理者を補佐して、管理者不在時に問題解決にあたることができる		6等級
指導職	エキスパート	リスクマネジメントができる グループをまとめ問題解決ができる		(主任) 5等級
上級業務職	シニア	複雑な判断を要する業務ができる 上司の指示でグループをまとめ問題解決ができる	5年以上	(副主任) 4等級
中級業務職	レギュラー	比較的高度な知識や経験をもとに、応用判断ができる 後輩に正確な指導ができる	3~5年 未満	3等級
初級業務職	レギュラー	日常の定型業務を独立してできる 後輩に正確な指導ができる	1~3年 未満	2等級
初任者	チャレンジ	実務の基本知識をもとに、 リーダーの元で基礎実務を習得	1年	1等級

「未来プラン」の4つのポイント

「未来プラン」の柱は、①自分のキャリアプランを選ぶことができる、②選んだプランで自分を高めることができる、③プランの先に自分の将来が見える、の3つで、未来のために自分で選ぶプランを4パターン用意しました。「チャレンジ」働きたがらへルパー2級の資格が取得できるプラン、「レギュラー」充実した施設内研修で実力アップを目指す人のプラン、「シニア」有資格者として後輩の手本となる人を育成するためのプラン、「エキスパート」専門職として幅広い知識と指導管理能力を開発するプランの4つです(表1)。

評価制度の整備が課題

「未来プラン」は準備期間に約5年を要しましたが、必要に応じて改良を加えて今日に至っています。たとえば、他施設への出向などで経験を広げるシステムも採用しました(表2)。また、女性が出産して、子育てをしながら介護の仕事をするように、「踊り場」的な働き方ができる制度として「子育て支援システム」も設けました。これは、常勤勤務の女性職員が出産後、勤務日数や時間を短縮できる非常勤で働いた後、本人が希望すれば常勤に戻ることができるシステムです。

「未来プラン」と連動して研修にも力を入れています。毎月テーマを決めて現任研修を実施するほか、専門的な分野での知見を得ることを目的に外部講師を招いた研修会も行っています。目下の課題は評価制度の整備です。「未来プラン」を有効なシステムとして機能させていくためには、評価制度をどのように作り上げ、実践していくかが重要な鍵です。平成25年度からは、内閣府が推進する国家戦略「プロフェッショナル検定である、介護職員のキャリア段階制度を取り入れるとともに、人材育成コンサルタント会社から講師を招き、本格的な「評価制度」づくりに着手しました。

表2 「未来」プランのサポートシステム

リーダー育成ステップ	A 新しいキャリア形成にチャレンジする意欲を支援(法人内介護保険事業所への出向研修や他施設への出張研修) B 育児をする人のため、所属セクションを一定期間離れ、他のセクションの業務に就きながらキャリア形成
子育て支援システム	体調や育児の必要に応じ、勤務時間や日数を変更できるシステム

この1年で評価制度を作り上げ、職員一人ひとりに光をあて、リーダー職に育ってもらいたいと思っています。

お仕事のヒント!

リーダーへ成長するためのキャリアアップシステムのポイントは?

- ①自分でキャリアプランを選ぶことができる
.....選択肢が用意されていること
- ②選んだプランで自分を高めることができる
.....研修制度が用意されていること
- ③プランの先に自分の将来が見える
.....ゆっくり歩める「踊り場」も用意されていること
- ④プラン別等級ごとの処遇が見える
.....実績を適切に評価する評価制度が用意されていること

介護者が知っておきたい 車いすの座位姿勢



【監修】
財団法人
保健福祉広報協会
評議員・
高齢者生活福祉研究所
所長・理学療法士
加島 守

車いすは介護スタッフにとって最も身近な福祉用具ですが、利用者の座位姿勢がよいかどうかの確認は忘れられがちです。車いすのサイズが体に合っていないと座位姿勢が悪くなり、さまざまな影響が出てきます。ところが、よい座位姿勢をとれば、車いすでの自立度を向上させることができます。

福祉用具に詳しい理学療法士で、高齢者生活福祉研究所所長の加島守さんに、介護スタッフが知っておくべき車いすの座位姿勢についてうかがいました。



よい座位姿勢「シーティング」に注目

よく耳にする「シーティング」という言葉は、「よい座位姿勢」を意味しています。よい座位姿勢は、利用者さんの毎日に意外なほど大きな影響を及ぼします。座位姿勢に着目してみよう。

座位姿勢の改善で自立度が向上

座位姿勢がよくなると、お尻が痛くなくなるので、座位で

時間が長くなり、車いすでの作業時間も長くなります。手や足を使って自分で漕げるようになって自分の行きたいところに行ける、今まで食事の介助してもらっていたのに自分で食べることでできるようなるなど、生活の自立度が向上します。

よい座位姿勢で食事をすると、頸部の緊張が緩和されて口の動きがよくなるため、食べ物や口に入れてから飲み込むまでの動作がしやすくなるという変化も見られるようになります。

こういった嬉しい変化によって、食事介助や移乗介助の負担も

軽減できます。

さらに、車いすを使う利用者さんの体がまっすぐになって顔が正面を向いていると、目に入ってくる風景もよく見えるので、外からの刺激を受けて活気が出てきます。ベッドにいる時間が長かった人も、ベッドから離れて、車いすで自分らしい暮らしをすることも期待できるでしょう。

よい座位姿勢を目指す工夫に取り組む

よい座位姿勢をとれない一番の原因は、車いすのサイズが大き

すぎることです。施設で使われている標準的な車いすのサイズは、座幅、座面の奥行き、背もたれの高さがそれぞれ40センチとなつていますが、座ったときに座面の隙間が目立つならサイズが大きいです。小柄な利用者さんの場合、座っているうちに前方へずれてしま

うのです。できれば体に合った座幅の車いすを使いましょう。

ただし、利用者さん一人ひとりにサイズのあった車いすや調整できる高機能の車いすを用意することは、現実ではなかなか難しいことです。そういったときに、クッションやタオルを使って、いまある車いすを調整するだけでも、座位姿勢を大幅に改善することがあります。

ぜひ、車いすの座位姿勢をチェックしてみてください。

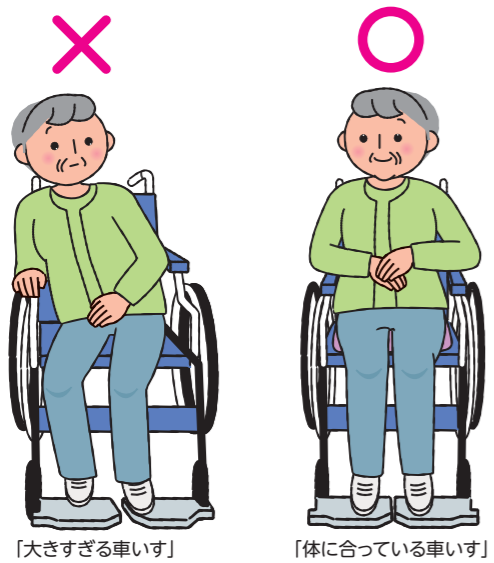
よい座位姿勢のために介護者が留意すべきポイント

1 まずは体に車いすが合っているかどうかを観察

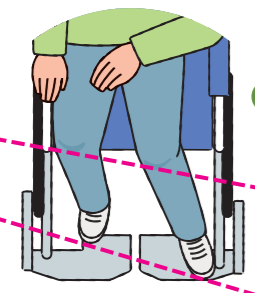
車いすが体に合っている状態は、正面から見て左右が対称で、肩も腰も水平であること、横から見て臀部の真上に頭が位置し、顔が正面を向いていることがポイントです。車いすのサイズが体に合っているかどうかは、見て確認しましょう。

正面から見たときの悪い座位姿勢

- 体が斜めに傾いて、まっすぐ座れていない
- 左右が対称的でない
- 車いすの座面の隙間が目立ち、サイズが大きい



「大きすぎる車いす」 「体に合っている車いす」



上から見たときの悪い座位姿勢

- 肘の位置が左右非対称
- 膝や足の位置がずれている (腰の位置が回転しているためずれる)

2 よい座位姿勢にするための工夫

基本は、車いすにはクッションを敷き、座面を水平に保つことです。クッションには素材や厚さもさまざまで、どれが適するかを見極めるには、実際に使って利用者の様子を観察して評価し、さらに改善するというプロセスが必要です。

よい座位姿勢を保つための工夫をいつも実施できるように、その情報を介護スタッフみんなで共有することも大切です。

車いすのシートのたわみを除く

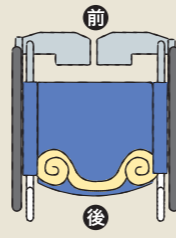
車いすの座面シートの中央部や大腿部が接する前部にはたわみが生じるので、その部分にタオルなどを入れてたわみを解消し、その上にクッションを敷いて座面を水平にする。

深く着座させる

奥行きが深すぎる場合は、背当て代わりにクッションを使用する。

臀部、大腿部、腰から背中にかけて隙間をつくらない

体が左右に傾かないように、背もたれと背中の中にタオルを入れて、臀部と大腿部、腰から背中にかけて隙間が生じないようにする。



フットサポートの高さを調節

フットサポートの高さを加減し、足底がフットサポート全体に乗るようにする。小柄な利用者さんでは足底とフットサポートの間にクッションなどを入れて調節する。

食事のときは足元を安定させる

フットサポートを跳ね上げて足台を使用し、足にしっかり体重がかかるようにする。

食事のときだけダイニングチェアに座ることも対処法の一つで、臀部を痛がらないことを確認する。なお、車いすの肘掛けが邪魔になってテーブルに近づけない場合は、食事がしにくいことも念頭においておく。

座位困難な人には姿勢保持機能車いすを使用する

安全に!

タイヤの空気をチェックし、空気圧を一定しておきましょう。外で使うことが多い場合は、タイヤが大きなもの(標準形)の方が安定して乗り心地がよいです。

清潔に!

車いすの座面は食べこぼしなどで汚れやすく、座面の溝には食べ物のカスがたまっています。座面や肘掛けはこまめに拭いて、清潔を保つようにしましょう。外で使って室内に戻るときは、タイヤを拭く、アルコール消毒することを忘れずに。

D-CARE Report

Dケアセミナーの開催報告です。

2014年 11月11日 (火)

介護の日 Dケアセミナーを開催します!

「自立支援介護を通じて、利用者ができること」
13:00~17:00

13:00~17:00 マウントレーニアホール(東京都渋谷区)にて

第一部:「今ふたたび自立支援介護を考える」
順天堂大学保健看護学部 講師 藤尾祐子氏

第二部:「介護現場ではじめる口腔ケア」
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
歯科衛生士 山田あつみ氏

第三部:「白十字からの
ご提案」



CARE VIEW

介護施設への導入が進む 介護ロボット「パロ」

要介護の高齢者にやすらぎを与える介護ロボットとして注目されている「パロ」。認知症による問題行動を抑える効果も期待され、神奈川県では介護施設への「パロ」の導入と普及に取り組んでいます。

●「パロセミナー」を開催し、参加者の施設にパロを無料貸与

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会では、国や他の自治体で先駆けて、平成22年度より神奈川県事業の一環として、介護ロボット普及推進事業に取り組んでいます。

介護ロボットが果たす役割について、振興会では、①介護する人の負担を軽減する、②介護される人の自立を支援する、③介護する

人とされる人のコミュニケーションやセキュリティを支援するなどのメリットを挙げています。また、振興会では、介護ロボットの試験導入のほか、介護ロボットに関するマーケットリサーチや、介護ロボットのメリットを広く知ってもらうことにも力を入れています。イベントやホームページによる情報発信のほか、実際に介護ロボットに



「パロ」の使い方を学ぶセミナー



色はホワイト、チャコールグレー、サクラの3種類

振興会では毎月1回、介護スタッフにパロの使い方や導入事例を紹介する「パロセミナー」を開催しています。参加者が所属する施設にパロを無料で約3週間貸与するサービスも行っており、参加者を募っています。

Dケアセミナー 松本

日時:2013年12月6日(金) 13:00~16:00
会場:キッセイ文化ホール 国際会議室

第一部:「おむつを外し尿失禁を改善する」

～排泄自立の理論と実践から科学的介護を考える～
講師:順天堂大学保険看護学部 助教 藤尾祐子氏

第二部:白十字からのご提案

「おむつ内環境改善に向けて」～スキントラブルを軽減しよう!～



Dケアセミナー 京都

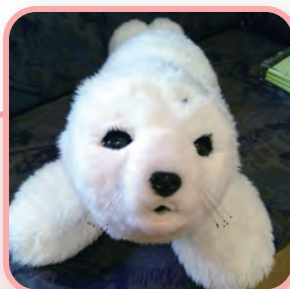
日時:2014年3月15日(土) 13:00~16:00
会場:京都リサーチパーク 会議室

第一部:「臨床現場で出会うスキンケアの実際」

～明日から活用できるスキンケア～
講師:愛媛大学医学部附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 杉本はるみ氏

第二部:白十字からのご提案

「おむつ内環境改善に向けて」～スキントラブルを軽減しよう!～



精神的なやすらぎが得られる「パロ」

今、介護施設に最も多く試験導入しているのが、アザラシ型のメンタルコミットロボット「パロ」です。抱き上げると温かみがあり、話しかけると鳴き声をあげ、話しかけたり目を閉じたりして、利用者の心に働きかけます。また生き物らしく反応をすることに慣れて、なでられると学習して反応が早くなる、飼い主の好みに近づくと名前をつけて呼ぶと学習して反応し始めるなどの機能も持っています。

認知症の高齢者が愛着を持って接するうちに徘徊などの問題行動が抑えられ、効果が期待されています。パロの導入にあたっては、まず介護スタッフが接し方を実演して見せ、利用者が抵

抗なくパロを受け入れることができる体制を整える必要があります。「いくら優れた機能をもつても、介護ロボットはそれだけでは普及しません。使いこなすためには介護スタッフの介在が不可欠です。パロは利用者さんと介護スタッフ、それに利用者さん同士のコミュニケーションの道具にもなります」と同振興会介護ロボット推進課長の関口史郎さんは話します。

公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会
長寿・経営支援グループ 介護ロボット推進課
横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階
電話:045-662-9538
ホームページ
(介護ロボット普及推進事業)
<http://www.kaigo-robot-kanahuku.jp>
(振興会)
<http://www.kanahuku.jp>

介護付有料老人ホーム ウェルケアテラス 氷川台



ウェルケアテラス氷川台
スタッフの皆さんと弊社山内

施設の理念にも取り入れられた 自立支援介護

現在都内に4カ所を構える介護付有料老人ホームウェルケアテラス。その第一号として2012年11月にオープンしたのがここウェルケアテラス氷川台。そのコンセプトの中に自立支援の介護が目指す介護として掲げられています。「特別養護老人ホームなどでは取り入れている施設は多数ありますが、われわれのような有料老人ホームではほとんどありません。当然、経営的な立場では差別化の要素としても考えています」と語るのは、今年の春までホーム長を務め、現在は本部の運営を統括する部署におられる畑一道さん。どんな取り組みも、新しいやり方に変えることで大きな問題が想定されない限り「まずとにかく一度、やってみる」スタンスを進めているとか。「それまでリフト浴を使用していたのも、一気に個室へと変えました。そうしたら、全く問題なくできてしまったんです。今ではどちらかと言うと、リフト浴槽に移乗の方が大変で手間!という声が聞こえてくるほどです」と、いとも簡単なことのように話す黒田介護主任。ご苦労や困難なことは、当然起こっているでしょう。ですがその先に、ご本人、ご家族の双方に喜ばれることが待っている。それを明確にイメージできているのが伝わってきます。



◆おしりピッタリパンツを活用したトイレ誘導

新しく入って来た方も、手すり立てる方は全て、テープ止めタイプの紙おむつは、パンツタイプ紙おむつか白十字のおしりピッタリパンツに変えるのだと言います。「環境が変わった時こそ、新しいやり方に変える良い機会なのです」黒田さんの笑顔からは、強い意思と揺るがない自信が感じられました。

水分をより多く摂れるようにと、同じデザインで容量が多い湯のみに変えるなどの工夫が、大きな効果を発揮しているそうです。教わったことをベースに、考えて変えていく。製造業などの現場に見られる“改善”を介護の現場に見ることができました。

このところ耳にすることの多い“施設と地域との結びつきの強化”を開設当初から実践しておられるパルシアさん。地域とのつながりは、選ばれる施設となるためにも欠かせない取り組みだと感じました。

こんにちは

今回の“こんにちは”では、
仙台市宮城野区の特別養護老人ホーム
「パルシア」様、
東京都練馬区の介護付有料老人ホーム
「ウェルケアテラス氷川台」様に
おじゃましました。

特別養護老人ホーム

パルシア

広報委員会を通じた 地域への情報発信

パルシアスタッフの皆さんと弊社安藤・宮城



平成10年開設のパルシアさんでは、平成14年にISO9001を取得。サービス満足度の向上に、積極的に取り組んでおられます。「毎年実施しているサービス満足度調査の結果は、広報誌“つばめ”でご家族はもちろん、周辺地域にも向けてご報告しています。全4000部のうち2300部ほどが町内会を通じた全戸配布分です」と語る野辺地事務長。地域とのつながりを重視しているのは、開設当初からの方針だとか。例えば1階にある地域交流ホールでは“地域の方が気軽に入ってこられる場所”をコンセプトとし、社会福祉協議会や、町内会のイベントなどにも解放しています。「この取り組みを安心サポート事業と名付けています。先の震災のような災害時に限らず、夏の暑さで脱水の危険があるような時や冬場に体調が悪い時など、困った時にはいつでもどうぞ来てください、という思いで地域に開かれた施設を目指しています」とは、仙台市地域包括支援センターの連絡協議会会長も務める折腹施設長。民生委員や地区社協などとも連携を取りながら、まさに地域を包括的に支える取り組みを推進しておられます。



◆震災時には福祉避難所としての役割も

仙台は3年前の東日本大震災で、甚大な被害を受けた地区。ここパルシアさんでは市の福祉避難所として33名の避難を受け入れ、その役割を果たしました。そして現在では安否確認訓練を実施するなど、さらに地域との防災面での結びつきを強化。街の重要な役割を担う拠点としての存在感を高めています。



サルバ お肌にやさしい吸水パッド

咳をしたり笑ったりするだけで尿がもれる。トイレが間に合わない。加齢や出産による尿モレに悩む女性が増加しています。そこで白十字は、尿モレの不安から解放される軽度尿失禁パッドを開発。“素肌とおなじ弱酸性”で肌をいたわる尿ケアを実現し、いきいきした毎日をサポートします。

お肌すっきり、
長時間あんしん

いつも通りに過ごすための工夫

50cc・100ccタイプ
イメージ

高吸水ポリマー

尿をしっかり閉じ込め
いつもサラサラです

吸水後の気になる
においを抑えます

※アンモニア臭に対して

全面通気構造で
装着時も
お肌快適です

粘着テープが
使用中のズレや
ヨレを抑えます

150cc・200ccタイプ
イメージ



50cc

かいてき
小・中量用
14枚入



100cc

あんしん
中量用
14枚入



150cc

しっかり
長時間用
14枚入



200cc

たっぷり
夜・長時間用
14枚入

編集部より

2000年4月に介護保険法が施行されてから15年目を迎えました。その間、我が国における高齢化の流れはその勢いを増し、既に「4人に1人が高齢者」という世界でも未知の領域に達しました。

一方でケアの中身についても変遷を見てみると、個別ケア、介護予防、自立支援など、「ご本人にとって必要なものとは何か？」を考えた取り組みヘシフトしている印象を受けます。

白十字でもその時々介護トレンドを踏まえ、またその先に「求められるもの」を追い求めて、商品開発・情報発信に取り組んでいます。

お問い合わせ
お便りは

白十字株式会社
「D-wing」編集部まで

〒171-8552
東京都豊島区高田3-23-12
TEL.03-3987-6974